

**授業概要**

この講座では、保育・幼児教育の目的や歴史等に関するこれまでの学びを基礎にして、保育・幼児教育の現場で求められる計画立案に関する理解を深めながら、保育者としての自己形成の基礎を培う学習である。ここでの学びが、保育者としてのこども理解や援助、計画性、協働性等の形成に繋がる学習となるものである。このような学びの根底には、絶えず子どもの成長を見守り観察・記録を続けながら、養護と教育が一体化された実践を積み重ねようとする努力が求められる。このような保育者の営みやその歴史を重視した授業を通して、有意義な保育・教育課程論の講義を進めていく。

**授業計画**

第 1 回	オリエンテーション
第 2 回	幼児教育と保育所保育
第 3 回	幼児教育の萌芽期と保育内容
第 4 回	明治期以降の保育内容の変遷
第 5 回	保育所保育指針と幼稚園教育要領
第 6 回	保育計画と指導計画
第 7 回	幼稚園での保育の特質と指導計画
第 8 回	保育園での保育の特質と指導計画
第 9 回	保幼小の連携
第 10 回	地域との連携
第 11 回	保育の評価と記録
第 12 回	設定保育と教材の特性
第 13 回	設定保育と指導案
第 14 回	カリキュラムマネジメントのあり方
第 15 回	学習のまとめ・筆記試験

**到達目標**

1. 保育・教育課程の目的、意義、思想などに関する基本的な考え方を理解し説明できる（知識・技能）。
2. 保育・教育課程の現状や課題をふまえながら、小論文や口頭で表現している（思考・判断・表現）。
3. 保育・教育課程に関するグループ討議や発表に進んで参加しようとする（主体的学習態度）。

**履修上の注意**

単位修得のためには、最低 10 回の出席（しかも無遅刻・無早退であること）が不可欠となる。また、授業では、グループ協議・発表等を重視する。筆記試験は、「小論文」形式で出題する予定である。

**予習・復習**

授業内容の深い理解、予習・復習のため授業時間外に「課題」を作成し提出する。

**評価方法**

学期末試験 70%、授業中に課す簡単な課題への回答 10%、レポート 10%、受講態度 10%

**テキスト**

テキストは使用せず、毎回の講義で必要な資料を配布する。次の参考書も併用して学んでほしい。  
『新版 教育・保育課程論』一藝社・2,200 円＋税、（監修）谷田貝公昭等、（著・編集）高橋弥生等